

# 地域社会との密接な連携を築こう

～地域と学校と「共汗・共感・共歓」できる活動を目指して～

豊田市立若林西小学校PTA

## 1 学区及び本校の概要

豊田市の南部に位置し、田畑に囲まれた農村地帯である。昭和53年の開校以来「緑と花の豊かな学校」としてFBC（フラワーブラボーコンテスト）や学校環境緑化コンクール、緑のカーテンコンクール等にPTAと共に参加し、成果をあげている。

地域学校共働本部が設置され、コーディネーターが中心になり、読み聞かせやクラブをはじめ、稲・大豆・大根作りの農業体験、逢妻男川環境調査などの学習活動に地域講師を招聘している。地域の教育力を効果的に活用しながら、地域と共に教育活動を推進している。

## 2 PTA活動の組織と研究のねらい

役員7名（会長1副会長2書記1会計1監査2）と4人の委員長（教保・環境・広報・園芸）で運営委員会を構成。各委員会で常置委員会を構成。運営委員と常置委員で全体会を構成する。「夢に向かって 子と共に伸びゆくPTA」を標榜し、「緑と花の豊かな学校」づくりを核にした学校教育活動への協力・支援はもちろん、家庭教育の一層の向上を目指す。

地域と学校と「共汗・共感・共歓」しながら、やりがいを感じることでできるPTA活動を実現するあり方を追究する。

## 3 研究の実践

### (1) 地域に根ざした活動

#### ア 「緑と花の豊かな学校」づくりの取り組み（FBC・学校環境緑化コンクール）

園芸委員会が中心となり、児童や教職員とともに年間を通して、種まき・移植・定植・花摘み・花の世話・樹木の剪定に組織的に取り組んでいる。当番を決めての休日の水やりも特色ある活動として、親子3代続いている。

今年度は、FBC「名古屋鉄道賞（優秀賞）」学校緑化コンクール「特選」に入賞した。受賞が大きな励みになっている。今後も継続発展のために条件整備や改善を図っていく。



【9月：苗の移植を行う園芸委員】

#### イ 毎月第2日曜日は資源回収の日

若林西小学校区では、第2日曜日が「資源回収の日」として定着しており、自宅の前に資源をまとめて出していただける。環境整備委員会が中心となり、当番を決め、役員・委員が回収業者と回収にあたっている。地域の協力もあり成果を上げている。

#### ウ 地域の方も楽しみにしている「若西バザー」

リユース、リサイクルを合い言葉に、10月の第1月曜日は「若西バザー」の日として、家庭提供品と業者委託品で収益を上げている。授業参観日と同時に開催し、バザーを楽しみにしている地域の方も多し。業者委託品（ケーキ・お菓子・ソーセージ・パン）を扱うことで、販売収益を伸ばす工夫をしている。

## (2) 地域学校共働本部の活動を支援する

### ア ボランティアとして登録する

読み聞かせボランティア「たんぼぼ」や図書室環境づくりボランティア「わたげ」が毎月の活動を行っている。P総会で保護者募集を呼びかけ、多くの保護者が参加している。

地域学校共働コーディネーターが呼びかけている仮称「若西ボランティア」にも保護者が多数、参加登録している。



【月1回 読み聞かせ「たんぼぼ」ボランティア】

### イ 「共汗・共感・共歓」親子でともに学ぶ

地域の特徴を活かした「生活科」「総合的な学習」が行われている。地域学校共働コーディネーターを通し、地域講師を招聘している。2年大根作り、3年大豆作り、4年ゴーヤ作りと逢妻男川環境学習、5年稲作、などの栽培・環境活動に保護者の参加を募り、親子での活動を推進している。PTAも積極的にその活動を紹介しながら支えている。

## (3) 学校教育を支える活動

### ア 学校行事のスタッフとして

入学式や卒業式の儀式的行事、運動会、学芸会、持久走大会などの子どもが発表する行事の受付、来賓案内、接待、保護者の案内、駐車場誘導、安全面など役員を中心に協力している。また、修学旅行やキャンプの宿泊行事における駐車場整理、見送り、お迎えなど、係としての役割も担っている。

### イ 子どもの健康安全を保障するために

#### (ア) 親子あいさつ運動と通学団指導

年3回（5月・9月・1月）親子あいさつ運動を行っている。複数人で登校時に門に立ち、あいさつと登校の様子を確認している。学校と連携を取り、児童も同じ週にあいさつ運動を行っている。また、年2回（5月・1月）通学団世話人で登下校情報交換会を開催して、登下校の安全確保や通学団の問題について話し合っている。



【5・9・1月に行われる親子あいさつ運動】

#### (イ) 児童保健委員会とP教保委員会で行う「学校保健委員会」

年2回（6月・12月）学校と協力して学校保健委員会を開催している。本年度は「メディアコントロールにチャレンジしよう」をテーマに、メディアが生活や体に与える影響を学んできた。児童の劇や教保委員のクイズに、児童や参加した保護者もメディアコントロールの重要性について考えるよい機会となった。

## 4 今後の課題

学校とPTA、ボランティアや地域関係団体と連携したPTA活動は、地域学校共働コーディネーターの調整が加わり、双方が活動内容を理解しやすく、スムーズに進められている。

PTAが地域と学校に積極的に関わり、協働的に取り組む活動は、子どもの生きる力を育むために最適な学びの場であると考えている。一方で、学校とPTAの協働の活動が地域の方にとっても喜びや愉しみになるように活動内容を再構築していくことも肝心である。

今後も保護者にとっても楽しいと思えるようなPTA活動を推進していきたいと考えている。